

氏名 平 井 武

学位(専攻分野) 博 士(医 学)

学位授与番号 博 乙 第 2656 号

学位授与の日付 平成 5 年 12 月 31 日

学位授与の要件 博士の学位論文提出者

(学位規則第 4 条第 2 項該当)

学位論文題目 **Qualificated Discrimination of Ovarian Malignancy by Diagnostic
Ultrasound**

(超音波診断による卵巢悪性腫瘍の数量化判別)

論文審査委員 教授 平木 祥夫 教授 大森 弘之 教授 赤木 忠厚

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

悪性卵巢腫瘍と良性腫瘍とを判別するために、1983年 8 月 1 日から1989年 7 月31までの間に超音波断層法を施行し、その後手術および組織学的検査によって確定診断のついた189症例214卵巢腫瘍を対象とした。エコーパターンを 3 群、即ち嚢胞性パターン、充実性パターン、混合パターンに分類した。嚢胞性パターンを示した腫瘍をまず良性と評価した。次に充実性パターンと混合パターンの腫瘍のエコー所見（アイテムとそのカテゴリー）を詳細に観察し、これらの所見を統計学的に解析した。その結果、独立したアイテムが選択され、悪性および境界悪性卵巢腫瘍を良性腫瘍より最も効率的に判別するために林の数量化理論Ⅱ類を用いて重みづけスコアが与えられた。214卵巢腫瘍の全正判別率（パターン分類と重みづけスコアリング）は90.2%であった。

さらに、1989年 8 月 1 日から1991年 7 月31日までに超音波断層法を施行した65症例、73卵巢腫瘍によって外的チェックを行った。その結果、全正判別率は93.2%と向上した。したがって、これらの超音波断層法に基づいた高い正判別率はそれによって得られたスコアが悪性卵巢腫瘍を良性卵巢腫瘍から判別するために有用であることを示していると考えた。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は卵巢悪性腫瘍の超音波診断法に関する臨床的研究であるが、パターン分類と重

みづけスコアリング評価法が卵巣腫瘍の良性悪性の判別に有用であることを明らかにした
価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。